

〔第1回〕

GSRC seminar

National Center for Geriatrics and Gerontology, Research Institute

免疫老化と新型コロナウイルス感染症

炎症・免疫機構研究部

丸山 光生 部長

2022年2月9日(水) 16時00分～

第1研究棟2階大会議室

先進するわが国の高齢化社会において、健康寿命の延伸に貢献できる基礎研究を科学的なエビデンスに基づいて成果に繋げることは肝要である。私達は高齢者の死因の中でも常に上位にある感染症に深く関わる生体防御機能の加齢変化に注目した研究を以下の長寿医療研究開発費の対象研究として進めており、今回はその進捗を中心に説明する。

免疫老化関連遺伝子 *Zizimin2(Dock11)* や腸管粘膜免疫系がどのように腸内細菌叢やその代謝産物の加齢変化と関わるかという**免疫老化メカニズムの研究(21-2)** とその機能低下が症状の重篤化に関連する**加齢と新型コロナウイルス感染症の重篤化に関する研究(21-42)** の2本立てで推進している。免疫老化研究については①Dock11研究で獲得免疫系におけるB細胞分化に関わる成果、②*p16ink4A*を老化の指標とした新たな2種類の老化細胞可視化制御ノックインマウスモデルを用いた個体老化の免疫系における多様性につながる知見、さらには③炎症抑制機能を有する腸内細菌の長期栄養介入後のメタボローム解析の結果を紹介する。また高齢者のCovid-19 重篤化に関する研究ではサマリーサーチセミナーでの紹介も含めたこれまでの2種類のSARS-CoV-2感染モデルマウスの確立と感染個体の病態解明、免疫応答の解析の現在の進捗状況について報告する。

座長：杉本 昌隆 副部長

連絡先：GSRCセンター長室(内線5002)